

## 理学療法学科4年生・作業療法学科4年生 実習を終えて

### 理学療法学科4年生 折田 ひかる

今回私が実習させていただいた病院は、患者様全員が自宅または施設退院を目指し、ADL獲得に向けたリハビリを行う回復期のリハビリテーション病院でした。

様々な患者様がいて、一人一人に合わせたリハビリ内容や接し方を臨機応変に考えていくことが大切だと学びました。

また、その病院では数多くのロボットを使用したリハビリを実施していました。実際に装着させていただくことができ、とても貴重な経験をする事ができました。

### 理学療法学科4年生 小畑 泰輝

今回の総合実習では、特色ある機械を見学させていただきながら、リハビリの考え方や学校では学ばないような評価の仕方などを学ばせていただきました。

自身の知識不足や姿勢・動作観察を言語化すること、仮説を沢山考えきれない場面が多々あり、苦労しました。正常動作や専門用語を熟知していなかったり、立ち上がり動作や歩行動作などで、いつ、どんな時に、どの筋が使われているのか理解していなかったことが一番の要因だと感じました。

今回の経験を今後の勉強や学校生活に活かしていきたいと思います。

### 作業療法学科4年生 冨田 嵩琉

私が実習で学んだことは患者様と向き合うことの大切さです。

情報を追究することが出来ず、患者様がどういった方なのか、よく知ることが出来ずに終わってしまう実習もありました。

そういった実習の反省点としてケースの趣味について、自宅か施設、どちらに復帰したいのか、何を目標としているのか、何について困っているのかをもっと追究する必要があると思いました。

早期に情報を収集することの大切さを感じた実習となりました。

### 作業療法学科4年生 伊藤 紗衣

今回の総合臨床実習が私たちにとって最後の長期実習でした。昨年まではコロナ禍で制限が多い実習でしたが、今回の実習では患者様の治療を考えるとところまで関わらせていただいた初めての経験でした。学校で学んだことと患者様の状態からわかること、根拠を繋ぎ合わせリハビリプログラムを立案する難しさと大変さ。悩みながらも患者様と関わらせていただく楽しさを改めて感じる9週間であったと感じます。

今回の実習を通し、改めて作業療法士になりたいという想いが強くなりました。今後はその夢を叶えるべく、2月に行われる国家試験に向け、さらに勉学に励みたいと思います。